

日本工学院専門学校 ITカレッジ
ITエンジニアのベーシックスキルの証明として
マイクロソフト認定資格の取得を奨励

2007年に、創立60周年を迎えた日本工学院専門学校。同校のITカレッジでは、ITスキルだけではなく、ヒューマンスキルやビジネススキルもバランスよく身につけた企業が求める人材の育成に力を入れています。その一環として、マイクロソフト認定資格の取得が奨励され、2008年度からは、Word 2007とExcel® 2007に加えて、Microsoft® Certified Application Specialist (MCAS)の試験対策ソフトの入ったノートパソコンを全入学生に支給。“資格と実学との両方をバランス良く教育する”をモットーとする日本工学院専門学校の取り組みをお聞きました。

専門学校として初めてコンピュータ教育を開始
——各分野で活躍するITエンジニアを育成

日本工学院的母体となる学校法人片柳学園は、1947年の創立。当初は、絵画科と洋裁科を擁する各種学校としてスタートしました。その後、1958年にテレビの本放送が開始すると、それと合わせてテレビ技術者の育成に取り組むなど、社会のニーズにいち早く対応したうえでのスペシャリスト教育を常にリードしてきました。1966年には日本の専門学校として、初めてコンピュータ教育を開始。日本の大型コンピュータ第2号機を導入したことも話題になりました。そして、創立60周年を迎えた2007年からは、培ってきた総合専門学校としてのノウハウと、質の高い専門教育を実現するためにカレッジ制を導入。現在は、ITカレッジ、クリエイターズカレッジ、ミュージックカレッジ、テクノロジーカレッジ、医療カレッジ、スポーツカレッジの6つのカレッジを擁しています。



同校では、学生のキャリア設計支援を目的とした「キャリアサポートセンター」も設けられている

ITカレッジは、4年制のITスペシャリスト科と、2年制の情報学科、パソコン・ネットワーク科、情報ビジネス科の4学科からなり、それぞれいくつかの専攻・コースに分かれています。ITカレッジのカレッジ長、倉重明さんは、同カレッジが育成する人材について次

のように説明します。

「いずれの学科も、各分野のITエンジニアを育成するのが目的です。しかし、ITエンジニアと言っても、単にプログラミングができればよしということではなく、企画・分析・設計やマネジメントをするための基礎力を身につけて卒業してほしいと考えています」

企業で求められる3つのスキル

——Officeソフトを使いこなすことの重要性

ITカレッジの教育理念は、産業界のニーズに対応した人を育てること。すなわち、実践力、即戦力を養うことです。そのためには3つのスキル —— 「ITスキル」「ヒューマンスキル」「ビジネススキル」をバランスよく身につけることが大切だと倉重さんは強調します。ヒューマンスキルとは、社会人としての常識や仕事に対する責任感、コミュニケーション能力などを指します。ビジネススキルは、各種業界の基本的な知識やビジネスの基礎知識です。ITカレッジでは、ヒューマンスキルやビジネススキルを、ITスキルと同様に重複した指導方針が採られています。そして、これらのスキルを高めるうえで、Microsoft Office製品のアプリケーションソフトを使いこなせることも重要な要素として位置づけています。

「今は、ほとんどの企業でOffice製品を使っています。ITエンジニアが仕事をするためには、ExcelやWordなどのOffice製品を活用し、生産性を向上させることが不可欠です。プログラミング作業でも、その前後にはさまざまなドキュメンテーションが必要です。設計書や仕様書をWordで作成したり、PowerPoint®を使ってプレゼンテーションをしたり・・・。実際の仕事の現場では、そのようなスキルを発揮しつつ業務に取り組むことが

日本工学院専門学校 <http://www.nec.ac.jp>

所在地 東京都大田区西蒲田 5-23-22 (蒲田キャンパス)

東京都八王子市片倉町 1-4-1 (八王子キャンパス)

学生数 約 2000 人 (IT カレッジの 1 学年)

学校法人片柳学園は、日本工学院専門学校(蒲田)、日本工学院八王子専門学校、日本工学院北海道専門学校の 3 専門学校と、東京工科大学および、片柳研究所を擁する。2010 年には、蒲田に地上 20 階地下 4 階建ての新校舎が誕生する。



取材ご協力
日本工学院八王子専門学校
日本工学院専門学校
IT カレッジ
カレッジ長 倉重 明さん

基本です。Office 製品を使えるスキルを持ち、それを活用できることが良い仕事をする第一歩だと考えています」

さらに、実際に社会に出て SE として活躍している卒業生に話を聞くと、よりリアルにそのような現状が見えてくると言います。

「SE という職種は、プログラミングなどの実作業よりも、設計や管理などの作業が中心となります。そして、プロジェクト管理に Excel などの Office 製品をよく利用すると、ある卒業生は言っていました。その卒業生は、在学中に多数の IT 系の資格を取得しましたが、そのなかでも、現在、最も活用しているのは、Microsoft Office Specialist の資格取得で習得したスキルだと言っていました」

また、ネットワークの発達とデジタル化の進展により、ドキュメントのあり方が変化したことも、Office 製品のアプリケーションソフトをマスターする必要性が増したひとつの要因だと言います。

「以前は、文書を紙に印刷してそれを配っていましたが、今はデジタルデータで配布することが大半です。そうすると、ただ印刷したものがきれいに見ればよいということではなくて、ドキュメントの作り方自体も大事になってくる。誰かが作成したデジタルデータをほかの人が修正する際に、作り方がバラついていて共有化できないようでは、仕事の効率が非常に悪いですね。そういう意味でも、使い方を体系立ててマスターしておくことはビジネスを円滑に進めていくためにも重要なことだと考えています」

資格と実学の両方をバランスよく教育

——企業が、本当に求める人材を育てるために

日本工学院では、2005 年から学内(蒲田キャンパス)で Microsoft Office Specialist を受験できる体制を整備。さらに、2007 年 11 月からは八王子キャンパスでも受験できるようになりました。また、資格試験のための対策は、主に「ライセンス系」という区分の科目のなかで実施。これは、前期と後期それぞれ 20 週のうち、最後の 5 週で集中して試験対策講座を受け、講座が修了した時点で受験するというシステムです。どの資格の対策講座を受けるかは、学生が自分の目標とレベルに照らし合わせ、担任と相談して決めていきます。

Office 製品のアプリケーションソフトの使い方を授業で教えるだけでなく、資格取得として推奨する理由について、倉重さんはこう説明します。

「就職活動時のアピール材料のひとつになるという点が挙げられます。この資格は、学内試験での評価ではなく、世界で認められている資格なので、企業側から見ても取得した学生のレベルがわかりやすい。また、資格取得のための勉強過程もプラスになりますし、資格を取得したことで自分に自信がつく、ということもあります。とはいえ、私たちは資格だけを取得すればいいという考えは持っていません。当校のモットーは、“資格と実学の両方をバランスよく教育する”ということで、資格対策だけを徹底すれば取得率はもっと上がると思いますが、それだけでは学生が会社に入ってから苦労するだけですから」

日本工学院がコンピュータ教育をはじめて 40 数年。その長い歴史のなかで多数の人材を社会に輩出してきた同校は、企業側が本当に求める人材について常にヒアリングを重ねてきました。そうした企業からの意見は当然、カリキュラム作りにも反映されています。

「今後は、マイクロソフト認定資格の取得を IT カレッジの全学科で必須にしていきたいと考えており、2010 年からの導入を検討中です。IT エンジニアとして社会で活躍するためにも、そのベースとなる Office 製品のアプリケーションソフトの利用スキルの必要性は伝えていきたいと考えています」

上記のような方針は、企業がそういったスキルのある人材を求めているからに他なりません。同校では、社会人になった学生が、学校で習得した専門性を仕事で活かすためのベーシックスキルとして、この資格の取得が位置づけられています。



蒲田キャンパスは 2010 年に完成予定。上記イラストは、「蒲田キャンパス新構想」のシンボル、新タワーのイメージ